

京都大学生協  
#一週間タマゴを使わずに食堂を営業してみます。



取り組み概要

日時：2023/4/24（月）～4/28（金）  
※吉田食堂のみ4/24（月）～4/26（水）  
場所：京都大学生協食堂全店  
組合員の反応：事後アンケート84件回答  
「言われるまで卵不使用に気づかなかった」など

概要：京都大学生協食堂部職員による企画。昨今の鳥インフルエンザ流行を踏まえ、1週間全食堂で卵を使用せずに営業した。期間中は、京都大学生協カフェテリアルネのTwitter (@CafeRenas) にて情報発信が行われた。

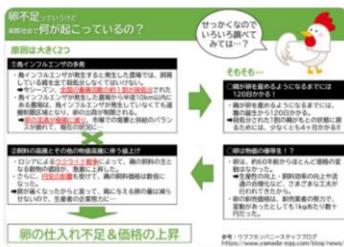
身近な社会的課題を、身近な食堂から考える

POINT.1 タイムリーな社会的課題に着目

今年度、関西北陸ブロック方針「社会をつくる」分野では、ブロックで大切にしたいポイント②に「大学生協を、組合員の社会的課題への興味・関心をつなぎ、広げるプラットフォームにしましょう」と掲げています。

加工卵を使った食材の出荷数が抑制されていることを逆手に取った本企画。普段使う食堂を通して、社会を知る糸口になれたらという職員の想いから生まれました。日常生活に直結している身近な時事問題を、身近な食堂から考える取り組みとなっていました。

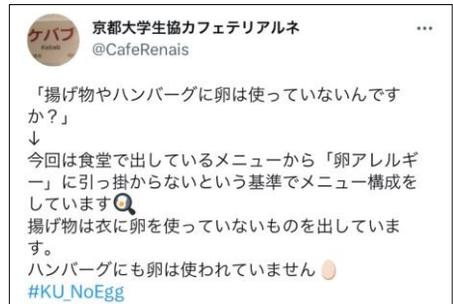
POINT.2 Twitterにて関連情報を発信



本企画では、「#KU\_NoEgg」と題し、Twitterにおいて情報発信が行われていました。「京大生協ってどれくらい卵使っているの?」「そもそも、なぜ卵不足なんだろうか……」など、知っているようで知らない関連情報が発信されていました。「鶏卵の物価が上がっている」という事実は知っていても、その裏で何が起きているかは案外認知されていません。組合員が身近に使うSNSを通して、世界の食材の状況を周知・理解してもらうきっかけとなっていました。加えて、独自のハッシュタグを用いることで、組合員の反応をダイレクトに把握することができていました。

POINT.3 「大がかりなこと、難しいことをしなくとも」

「今回の企画は、そんなに難しいことはしていない。メニューを少し調整しただけ。それでも、社会に目を向けるきっかけは作れる」本企画を担当した職員さんの想いです。ただ利用者に謝って（あるいは黙って）卵の使用を控えるのではなく、生協だからこそ背景を説明したうえで理解して利用してもらうことが大切と仰っていました。何かを限定したり、制限することなく、肩肘張らずとも社会的課題に取り組んでいる点が、担当事務局から見た最大の一押しポイントです!



ご質問や[ K's NEWS ]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！  
ブロック学生事務局 [ 和田 明日香 ]  
Wada.Asuka@univ.coop